

## 池田町地域創生有識者会議（第4回）議事録

（岩谷座長）

皆様こんにちは。各委員におかれましては、ご多忙の中、本日の会議のためにご出席ありがとうございました。ただいまから、池田町地域創生有識者会議の第4回会議を開催いたします。はじめに、町長からご挨拶をいただきたいと思っております。町長よろしくお願ひいたします。

（岡崎町長）

改めまして、皆様こんにちは。3月も中旬になりまして、大変暖かい気候となっております。桜のつぼみも膨らんできているのではないかなと、そんな風に思います。そういった中で、今回第4回目の地域創生有識者会議のご出席をお願いいたしました。委員各自それぞれの立場の中で、これから池田町の魅力を発見しながら新たな展開をしていくという中で、いろんなご提案をいただき、あるいはまとめていただいて、冊子もつくらせていただき、あるいは総合戦略の計画にも携わっていただきました。それに基づいて、今も仕掛けをしながら動き出しをいたしまして、ここ1～2ヶ月でもものすごく状況が変わってきました。若い人達が「池田町がこんなことをやっているのなら、まちづくりに参加したい」と私の部屋に直接お見えになることがございます。「何か一緒にやってみたい」という若い方のお話も聞こえ出し始めましたので、大変うれしく思っております。来週の3月15日(火)にはブルースカフェでママカフェをやらせてもらえるということで、プロジェクトに関わる皆様が快走で動き出したという状況で、大変私も喜んでおります。昨日実は、池田山プロジェクトでやっている電動アシスト付き自転車のツアーで山麓を回らせていただきました。その時も若い夫婦の方が来てみえましたし、お年寄りの方もみえました。更に、大阪府など遠くからも来ていただいたようで、池田町を散策してみえるという状況も出てきましたので、これからこういった動きを更に展開していきたいなという思いであります。

同時に、大変心配しておりました養老鉄道が平成28年3月1日に解決いたしまして、存続ということでこれからしっかりと守っていけるとなりました。養老鉄道は廃線の危機にあり、地方創生どころではないと内心焦っておりましたが、これからは存続に向けて一丸となってやっていくという思いであります。

これからいい方向に向けて動きだしましたので、さらに良い発展のために、総合戦略に新規事業を付け加えましたので、そういった内容について今回報告をさせていただき、この4月からまた新しいスタートを切りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。大変お世話になっておりますことを改めてお礼申し上げながら、ご挨拶に代えさせていただきますと申します。ありがとうございました。すみません、この後所用が入っておりますので、ご無礼いたします。

(岩谷座長)

それでは今回、有識者会議委員の株式会社 J T B 中部 地域交流プロジェクト営業推進担当部長 長野隆様の人事異動に伴い、小古充素様に変更がありましたのでご紹介させていただきます。それでは小古様、一言よろしく申し上げます。

(J T B 中部 小古)

J T B 中部の小古と申します。いままで弊社の長野が大変お世話になっておりました。2月1日付けの人事異動で急遽北陸の方に参加することになりましたものですから、志半ばで皆様方とお別れするのが辛いという想いで北陸の方に行ってしまったということですが、引き続き長野の意思を受けて、私もがんばっていきたいと思いますので、皆様のご協力を得ながら、また引き続きよろしくお願ひいたします。

(岩谷座長)

ありがとうございました。それでは本日は、アイデア工房会議と池女会にて提案され、池田町版総合戦略にもりこまれました、現在実施中の7つのプロジェクトの進捗状況の確認、先日3日に開かれました地方創生特別委員会からの助言も含めて、P D C A サイクルを適切に実行した「池田町版総合戦略の改訂案」について、「国の加速化交付金に係る実施計画」について、みなさまにご検証、ご提言をお願いします。

それでは、本日の会議の流れを御説明いたします。本日は議題1「プロジェクトの活動報告」について事務局から説明をしていただいた後、議論したいと考えております。その後、議題2「岐阜県池田町版地方創生総合戦略の改訂(案)について」を事務局から説明していただいた後、議論したいと考えております。その後、議題3「加速化交付金に係る実施計画について」を事務局からの説明後、議論したいと考えております。質疑応答の時間は随時とりたいと思います。それでは、本日の議題の1つ目について、事務局からの説明をお願いします。

(小川企画課長)

それでは、失礼いたします。前回の皆様の会議の後、私どもで皆様からご助言いただいたものを含め、国の方に事業申請を行いました。そうしたところ、3,995万円の交付決定を受けたところでございます。交付を受けた7事業につきましては、12月の臨時議会でご承認いただき、その後、4ヶ月弱の間に取り組んでまいりました。その事業について1つずつ説明させていただきます。

まずは、プロジェクト進行状況報告書をご覧ください。1ページ目、「I T ・ S N S を活用した特産品の情報発信」ということで、生産者の方の収入を増やし、池田町の特産品を作っていくということで取り組んできましたプロジェクトでございます。こちらにつきましては、生産者としての達人は池田町にはたくさんいらっしゃいますが、それを直接販売

していくという面では少し弱いところがあるのではないかとということで、今流行のウェブサイトを通じて販売してはどうかと、取り組んだものでございます。初期投資が非常にかかるため販売への1歩が踏み出せないことが懸念されましたので、今回その初期投資を町の方で負担しまして、やる気のある生産者の方を募集して、販売サイトづくりに取り組みました。認定農家の方に呼びかけ、町のHPを通じて募集したところ、現在14名、14品目の方の申し出があり、現在27年度については進めているところでございます。KPIの目標である20品目には及びませんでした、この14品で取り組んでおります。現在の進捗状況としては、生産者の取材や販売サイトに載せる写真撮影をおこなっております。農産物の売り方、魅せ方等はプロの方のお力が必要ということで、プロの方に委託をして、28年度からは本格的に販売をしていくということを考えております。今後生産者の方々に販売組合等を組織していただいて、自分達で販売していけるようにしていきたいということで、そのような目標をもって現在取り組んでいるところでございます。

次に、2ページ目をご覧くださいと思います。「いい塩梅のまち～池田山を活用した体験交流ツアーの実施～」こちらにつきましては、アイデア工房会議の町民メンバー、又職員等10名ほどで取り組んでおります。またそこに、その道のプロであるJTB等専門の方をお招きしながら、4つの事業について取り組んでまいりました。観光客の需要調査及びツアー造成計画策定、ツアーガイドの育成、PR事業、モニターツアーの実施の4つでございます。KPIとしては育成ガイド数、こちらはボランティアガイドの育成ということで、全4回の講座を開いたところ19名の参加があり、昨日も行ったところでございます。観光ツアー計画の策定については、皆様にアンケートを実施して町民のかたで200件、町外の方で400件ほどアンケートを実施いたしました。そして、現在のところは分析中でございます。また、JTBの『るるぶ』池田町版を策定中で、町内のモデルコースや、お茶や池田町の歴史等、池田町の魅力のある冊子を3月末の広報と共に、皆様に配布をする予定でございます。また、ツアーガイドの育成としましては、歴史の分野については町内在住で岐阜女子大学教授の丸山幸太郎氏に学び、ガイドの仕方については西尾市観光協会の榊原氏を招いて行ったところでございます。また、PR事業としましては、池田山からの空撮等をYouTubeにアップロードするという動画を活用したPRや、自転車で巡る際に音声ガイドを使えるような、今回はアイビーコンというものを使用し、観光スポットでの音声ガイドによる観光案内を考えております。また、昨日までに全4回実施しましたモニターツアーにつきましては、電動アシスト自転車で町内の山側のコースと町側のコースのモニタリングをしました。モニターには78名の応募があり、また地元の皆様にも非常に色々なところでご協力いただき、検証を実施したところであります、今後この結果を検証し、充実したモデルコースをつくっていきたいと思っております。こちらのツアーの運営をどのようにやっていくかということと、更なる魅力的なツアーをつくっていくというのが課題となっていくと思っております。

次に3ページをご覧くださいと思います。3つ目といたしまして、「I Love IKEDA

～町民による池田町の魅力発信～」でございます。こちらにつきましては、町民に魅力的なところはたくさんあるのですが、まだまだその魅力をなかなかうまくPR出来ておらず、町民が知らないというような話がありまして、今回いつものPRとは違った目線で池田の魅力を見せていくということで、今回は池女会のメンバーを中心に、また特徴としましては池田高校の生徒さんも参加していただいて、魅力あるパンフレットの作成に取り組んでおります。また、パンフレットに載せるための写真を募集しましたところ、32名の方から121枚の応募がありました。この作品については今回のパンフレットにかぎらず、今後ホームページなどのPRでも活用していきたいと思っております。そして、パンフレットにつきましては、年度が変わりましたら、4月末の広報と共に各家庭に配布したいと思っております。課題としましては、今回どうしても募集した写真について風景等の静止画が多く、偏りができてしまったので、今後は飲食店などの撮影に町民の方の参加を求めて、また新たな試みもおこなっていきたくて考えております。

次に4ページをご覧ください。「ショートフィルム・YouTubeなどで池田町をアピールしよう」ということで、こちらも池女会の提案から実施したものであります。既存の池田町の行事には参加しづらい、分かりづらいというような意見があり、町民同士がもっと触れあっていけるものということで、池田町のPR動画の募集を行いました。ただ募集をかけるだけではなく、「参加者同士の繋がりを大切にしていこう」ということで、動画作成の講習会も5回開いております。今回21作品の応募があり、こちらにつきましては、実は今日この会終了後に上映会を行いまして、皆様にもご覧になって投票していただきたいと思っております。提出していただいた作品につきましては、ホームページやYouTube等にアップロードを行い、池田町のPRを図っていきたくて思っております。

次に、5ページに移りたいと思っております。「〇和プロジェクト～若者コミュニティの活性化により結婚へつなぐ～」でございます。こちらにつきましては、いわゆる結婚相談所とか、直接「結婚」が前面に出ているイベントにはやはり参加しづらいという意見が池女会のメンバーからありまして、最初はさりげなくお付き合いや出会いが求められるものいいということから、今回この中から3つの事業ができました。同窓会の開催、いちご狩り・スイーツ作り、そして印象力アップの講演会を実施したところであります。今回につきましては、池田中学校の同窓会ということで、今回25歳の方の同窓会を行いました。呼びかけをしたところ、222名中112名の、概ね40%の方の参加がありました。参考までに、この学年の内25歳で今結婚されている方は、2組だそうです。やはり、その同窓会で出会うだけで終わるのではなく、そこから継続して集まる機会を作って行こうということで、今回はいちご狩りやスイーツ作りなどという次の事業にも繋げるための試みをおこなっております。こちらにつきましては、26名の参加がありました。また、印象力アップ講演会ということで、テレビでもご活躍されているインプレッショントレーナーの重田みゆき氏をお呼びいたしまして、自分の見せ方、表情の仕方などを学んでいただいたということでございます。今後の課題といたしまして、今回同窓会を開いた学年は若い学年でしたの

で、今後30前後の方を募集しまして実施していきたいと考えております。また、これからは、この同窓会の実行委員を他の方の町民の参加ですとか、引き続き行っていくイベントを考えていきたいと思っております。

次に6ページをご覧くださいと思います。「職場体験・キャリア教育を通じて児童生徒の郷土愛を育む」というプロジェクトになります。こちらにつきましては、キャリア教育の実施ということですが、教育現場だけではなく、社会体験などしながら教育を学んでいくという場を設け、保護者なども巻き込みながらキャリア教育を実施していくというものでございます。この他に資格取得の支援ということで、3つの資格について町の方で助成をおこなっております。漢字検定、英語検定、文書検定の3検定でございます。漢字、英語検定につきましては、試験が終わっております。漢字検定は小学生37名、中学生は47名の参加がありました。英語検定は中学校54名、高校生67名の参加がありました。文書検定は、この3月に池田高校で1学年分を実施する予定でございます。また、KPIにつきましては、今年度末に、キャリア教育に参加していただく企業の数をあげましたが、今年度は、コーディネーターがまず自分達が学ぶ段階であり、企業への働きかけまでは至らなかったもので、期限を延長したいと思います。本年の11月までに50社を訪問していただくということでございます。また、この中の企業さんにもお願いするというようなことがあるかと思っておりますので、今後ともキャリア教育につきましてご協力をお願いいたします。

最後になります7ページ、「達人から学べ!～町の達人との交流の場づくり～」ということで、池田町には色々な「達人」と呼べる方がいるが、なかなかそういう方から学ぶ機会がなく、そういう方がどこにいて、どうしたらそれが学べるかが分からないということがあり、もっと交流をしたい、その方達に学びたいという意見がありましたので、本年度はそのような交流の場として10講座を計画いたしました。現在8講座まで終わっているところでございます。こちらにつきましては、洋風懐石料理の方ですとか、写真家の方、お酒を造っている方に学んでおります。7ページの7番と8番は、ちょうどこの前の土日に実施しております。「えんま堂と老舗料亭梅善「春の会席膳」」は18名、「アフリカの太鼓 Djembe ジャンベを叩こう♪」は21名、そして全ての参加者予定者は217名になっております。こちらの方、非常に盛況の中、実施してきたものでございます。今後の課題としては、住民の方々が自分達で企画してやっていけるように繋がっていけばいいということを考えております。

以上がこの7つの事業でございます。先ほど町長が申しましたように、予算がついていないママカフェなども、町民の方が主体となって現在進行中でございます。以上で、今年度の説明とさせていただきます。

(岩谷座長)

ありがとうございました。それでは、御質問や御意見のある方はいらっしゃいますか。

(工場会 松本)

すいません、ご説明にあったイベントなどのPRはどのように行ったのですか。どうやって人を集めたのでしょうか。

(早田理事)

イベントへの参加募集については、主に町の広報をつかっています。広報に作成したチラシを入れました。他には有線放送や、岐阜新聞や中日新聞にも多々取材していただいてPRしていますし、後は町のホームページと地方創生のフェイスブックで募集をかけました。フェイスブックを通じての応募が、結構あったところでございます。

(工場会 松本)

池田町の特産はお茶ということになっておりますが、今私には小学校3年生の孫がおりまして、池田町のお茶を沸かして飲ませたところ、「苦いでいやだ」と言われ、「おーいお茶」の方が美味しいと言っています。近くに自動販売機も沢山あるし、スーパーでも若い奥さんを見ていたら、大きいペットボトルが詰まった「おーいお茶」を箱買いしているのを見かけます。学校給食では、どんなお茶を出しているのでしょうか。小さいお子さんが「おーいお茶」を美味しいと思っているなら、池田町のお茶はPRできません。そういうところも、小さい子どもから池田のお茶が美味しいと思われる努力をしないとイケないと思います。

(小川企画課長)

本当にその通りで、お茶が並んでいるだけだとその魅力が分かりません。今回実は、2ページにもありますモニターツアーの中で、実際にお茶屋さんにも頼みまして、急須から入れるお茶は、実際はこうやって作っているというストーリーを紹介し、お茶をつくる過程を示すということを心がけました。このモニターの参加者の中にも、お茶工場の見学を通じて、スーパーで買うことしかないお茶が、実際はこうやって出来ているのかということに感動された方もみえます。そういうことも取り組んでいきたいと思っております。

(工場会 松本)

それと、もう1つ。スーパーへ行くと冷凍食品とかお総菜とか本当の家庭料理の味というのは、今の子どもには欠けている。今、課長が言われたこともいいが、要は、今の子どもに池田のお茶の味を小さい内に覚えさせることが必要だと言いたい。

(国枝教育長)

毎月給食センターの方から、どういう業者から何をどのくらい使っているという報告があります。その中で瑞草園のお茶を購入して、給食に使っていると報告を受けています。

(小川企画課長)

今後そのようなPRについては、考えたいと思います。

(養老鉄道 中澤)

養老鉄道の中澤でございます。まず冒頭町長からお話ありました養老鉄道の存続に関しまして、先だって各市町大きな決断をいただきまして、存続という大きな流れになりました。詳細につきましては、今後とも誠意をもって進めて行きたいと思っておりますし、我々養老鉄道と致しましても、引き続き増収、そして収支改善にしっかり努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

今回のプロジェクトにつきまして、質問というよりも我々からも情報提供させていただきたいと思っております。7ページでワークショップのご紹介をしていただいておりますが、こういう取り組みというのは、お客様に地域の魅力を発信する上で、非常に重要なプロジェクトと感じております。実は、養老鉄道におきましても、以前ご紹介させていただきましたかと存じますが、沿線ハイキングというものを実施しておりまして、その中で今回3月27日の日曜日に大塚酒造をコースの中に含みました酒蔵歩きというハイキングを実施いたします。具体的には美濃本郷をスタートしまして、霞間ヶ溪そして池野天満宮、そして大塚酒造さんをへて池野駅にもどって来るコースでございます。大塚酒造さんにおかれましては、お客様が立ち寄られた際に試飲サービスをしていただいたり、店頭で粕汁やら豚汁を販売していただいたりして、お客様から大変好評をいただいております、お客様も試飲だけではもの足らずに酒粕を買って帰られたりとか、酒瓶を買って帰られたりとかたくさんあります。我々としてもこのような取り組みも進めておりますし、今回池田町でもワークショップという取り組みも非常に関連深い事業だと思っておりますので、今後ともそのような情報は出来るだけやり取りさせていただきながら、今後も勉強させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(岐阜大学教授 富樫)

2ページ目の電動アシスト付き自転車で町内を回るというモニターツアーに、2月28日に僕も参加させてもらいました。大分暖かくなっていて、梅の花も咲いていて、非常に気持ちのいいサイクリングのツアーでした。地方創生の池田町のフェイスブックも見させてもらって、こちらでもシェアしていくと、自転車好きな方はかなり見えますので、段々広がって行って「いいね」とかいろいろ押してもらっていたみたいです。

それと、1つ教えていただきたいのは、アンケートの結果について、どういう所からどんな方が見えたかというあたりです。また、分析が今の段階でどうなのか教えていただきたいです。こういうイベントをすると、宣伝がすごく難しいと思います。集客に関してもなかなかうまく集まらないということが多いのですが、今回はいろんな事業や企画をみせていただくと、本当によく集客されていますので、いいなと思って拝見しております。

(早田理事)

2月27日と28日の中間アンケートですが、その2日間全体で37名の方の参加がありました。池田町内という方が6名、岐阜県内が25名、県外が6名です。県外からは愛知県の方が5名、大阪の方が1名です。県内の中で一番多いのは大垣市5名、次に岐阜市4名、後は垂井、海津、神戸、各務原、北方、笠松、揖斐川、瑞穂から参加がありました。他にも、紹介をさせていただきますと、参加された方のご意見で「何が一番良かったか？」というところに、「人とのふれあい」という方が多いです。特にお茶工場見学の時に実際に手もみ体験をできたとか、豚汁のサービスがあったことが挙げられていました。これは、急遽お茶組合の方で用意していただいたことでしたが、「人とのふれあいが非常に嬉しかった」という声が多くありました。後は、「電動アシスト付き自転車を体験したかった」という方が動機の理由として結構多くあり、自転車の方の評判も非常に良かったということです。反省する点については、地図について細部が不十分だったところとか、音声ガイドがまだまだ試作品の状態にして、声が機械音で聞き取れなかったとか、説明内容がもう少し充実して欲しかったとか、そういったところもご意見としてありました。

(商工会 松岡)

特産品について、参考例としてお話させていただきますが、こないだのテレビでやっていたのですが、各務原のキムチが有名になりまして、これは韓国のチュンチョンというところで姉妹提携をしたお陰で、キムチをなんとか各務原にということで、各務原がキムチの町ということになったそうなんです。キムチを市町が力を入れて、食堂やレストランで各務原のキムチを食べる、家庭でも食べるように努力した訳です。そのお陰で各務原は白菜を作ることに農家も協力するようになって、今それが有名になり各務原はキムチの町になったとこの前もテレビでやっていました。そういうような1つの例でございますが、各市町村はそういう努力をしていますので、そういう一体化した努力の仕方も考えていただきたいと思う訳です。

(早田理事)

恐らくそれもまちの方と行政なり民間の方なりが汗をかいて頑張られていることだと思いますが、池田町にも同じことが出来ると考えています。実は池田山のプロジェクトの中で、先程、お茶屋さんの体験があったと言いましたが、そこに至るまでは色んな過程がありました。例えば町内のお茶屋さんというのは、組合ごとに考え方が違ったり、今までやってきたことと新しくチャレンジすることにギャップがあつてその中でどうやって進めていこうか悩まれていたり、かなり苦労しました。その中で「こういう形だったらまずできるかな」というところを、ひとつずつ話ながら、今回のモニターツアーのお茶の手揉み体験によるおもてなしにたどり着きました。これも1回だけではなくて継続的に、お客様に同じ体験をしていただくにはどうしたらいいのかという前向きな話ができてきているので、



そのように進めていきたいと思います。また、今はお茶屋さんだけなのですが、他のことでも体験していただけるような企画を考えています。

(女性セミナー 勝野)

すみません、こういうものに参加された方の年齢層は、お若い方が多いのでしょうか？

(早田理事)

今のお茶屋さんの話ですと、大体40代の方が多いです。

(女性セミナー 勝野)

60代以降の人が結構色々な企画に参加したいという要望があります。しかし、なかなか情報をつかみにくい状況があります。こういう打合せに人数制限はありますか。

(早田理事)

年齢や人数で制限はかけたことはありません。ただこれまでやってきた中で、少人数でやった方が深い話ができるなというのはあります。

(中日新聞 廣田)

中日新聞の廣田です。昨日モニターツアーに参加しまして、人との交流は確かに多かったです。昨日最低でも30人ぐらいに声をかけられたと思います。弓削寺とか、池田温泉とか、お茶組合、あとは通りすがりの人にも声かけてもらって「ここおもしろいよ」とか、色々な町民の方とお話しできたのが魅力的だなと思いました。車だとドア TO ドアになってしまうので、自転車だと目的地まで行く旅というのか、こういうのが旅なのかと、目的地まで行く道を楽しむというのもいいなと、そういうことを昨日のツアーの中で思いました。ただ、課題として、安全面が怖かったです。山麓コースの参加だったのですが、後ろからスピードを上げて走ってくる車が多く怖かったことと、結構ゴミが落ちているということ。特にたばこですね。茶畑のところでは、よく目に付きました。車だと見えないものが自転車だと見えてしまう。魅力を高めるということも分かりますけど、そういうことで魅力を下げないようにすることも大事なのかなと思いました。以上です。

(小川企画課長)

関係課と調整して、掃除等に力を入れたいと思います。ありがとうございます。

(岩谷座長)

ありがとうございました。概ね、KPI達成にむけてプロジェクトごとに町民と民間事業者と役場職員が協同で活動されているということがご理解いただけたと思います。この

ことに関しまして、報告を了とさせていただきます。よろしいですか。

【異議なし】

(岩谷座長)

それでは、本日の議題の2つ目である「岐阜県池田町版地方創生総合戦略の改訂（案）について」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(早田理事)

それでは、議題2について説明させていただきます。まず、総合戦略をどう変えたかという内容の前に、なぜ変える必要があったかというところからお話させていただきます。

去年の9月までに池女会とアイデア工房会議全5回が終わりました。その後、今報告させていただいたように、役場と町民でチームを作り、10月後半から各チームで企画準備を始めました。早いところは12月にイベントの募集を開始して1月早々にイベントを行うということもありましたし、じっくり時間をかけて年初から動き出すということもありました。そういった中で大変だったのは、9月の池女会やアイデア工房会議が終わってから、10月に動き始める前までの約1ヶ月の間でした。というのも、私達、役場職員にとっても、町民の方にとってもアイデアは出したけれども、これから先どうやって事業を進めていけばいいのだろうか、具体的な事業のやり方がなかなか掴みにくいという課題がありました。第5回が終わる時に、アイデアを出すだけではなく、今後、一緒に事業をやっていきましょうと町民の方に伝えたにも関わらず、なかなか動きだせなかったということで、町の人も期待しつつ、段々と「自分たちのアイデアがどうなるのだろうか？」と不安が大きくなる、しかし、解決方法が見えてこないという苦しみがありました。そのときに痛感したのは、やはり役場だけでは限界があるということです。現在、役場だけではなく民間の人達と共に今動いているプロジェクトが7つ、民間だけで動いているプロジェクトが1つある状況なのですが、その8つの事業全体を見る人物が必要だと、プロジェクトを行っていく中で痛感しました。今回は、私と企画課がこの全プロジェクトに関わっています。例えば、「池田山チームで『るぶ』を作れば、I Love IKEDA チームでも情報誌をつくっており、どこで差別化を図っていこうか」等と、プロジェクト間での調整が必要な場面も出てきました。そういった意味でも、全体を見渡せる人材や、各チームの町の人達の意見をきちんと聞くことができる人材がどうしても必要だと痛感しました。

そういった中で、来年度、何に一番力を入れていくのかということ、まさに国が言っている地方創生人材の確保と育成というところでもあります。池田町でもそのような内容に取り組みたいと思い、人材を確保して育成していくことと、その人材が活動できる拠点をつくっていききたいという趣旨で、総合戦略を改訂させていただきました。

では、具体的にどういうところを変えていくかを、順に説明させていただきます。「岐阜

県池田町地方創生総合戦略(案)」の2ページをお開きください。赤字になっている部分が、今回追記あるいは修正をさせていただいた部分でございます。今、お話をさせていただいた「どうして総合戦略を改定したいと思ったのか」という趣旨について、ここに記載させていただきます。

実は、今お話をさせていただいた以外にも課題がありまして、それは、先ほど町長や中澤さんから話がありましたように、池田町の地方創生の土台には養老鉄道があるということでございます。仮に、養老鉄道が無くなってしまうと、池田町に住む子ども達が池田高校以外の高校に通えなくなってしまいます。池田高校以外の高校に通えなくなってしまいうことは、若い世代の親に池田町が選ばれなくなってしまいうことに繋がります。そうしますと、どんどん若い世代が離れていって、人口減少に歯止めが利かなくなってしまいう。ここが全ての根幹だと考えています。そういった中で、養老鉄道のどこを一番改善していきたいかといいますと、やはり日常的に利用してくださるお客様の確保だと思っております。その中の1つの方法として、目をつけたのが旅行客というところでございます。その際に、池田山プロジェクトの発端は、池田町は桜の季節以外に観光資源がなく、年間を通じて観光、体験交流として楽しめる町をつくっていきたいという思いでしたので、池田町の体験交流ツアーをつくっていく中で、年間を通じて養老鉄道を利用して池田町に訪ねてきてもらえる仕掛けをつくっていきたいという趣旨でも、今回この戦略を改訂させていただきます。

その他には、今の取り組み状況に合わせて、来年取り組む予定のところを少し先延ばししたところもありますが、内容について変更したところもあります。

続きまして、資料の6ページをお開きください。池田町が目指す方向性として、従来5つの基本目標を設定しておりました。1つ目は、池田町に仕事をつくり、町民が安心していきいきと働ける。2つ目が、町民が町に愛着を持ち、PRできるようになることで、新しいひとの流れをつくる。3つ目が、若い世代の結婚・子育ての希望を叶える。4つ目が、中高生と社会をつなぐなど、時代に合った地域をつくる。5つ目が、広域連携により圏域の新たな魅力をつくる。5つ目の基本目標の中に、今赤字で事業を追記しておりますが、これは、西美濃地域3市9町が参加する西美濃地域創生推進会議の中で決定した、3市9町で一緒になって取り組む、国内外への観光プロモーションや、UターンIターンの獲得のための移住への取り組みであります。また、後ほど詳細を説明しますが、揖斐川町と池田町2町の連携で、日本一の養老鉄道サイクルトレインを目指すために、レンタサイクルを整備し、観光の仕掛けを作るという事業についても追記しました。更に、基本目標6を追記しました。こちらは、基本目標の1から5の土台となる基本目標でありまして、町民と役場が協力しながら町づくりに取り組むことを追記させていただきました。協力しながら町づくりに取り組み、魅力的な町になることで、結果的に、2060年の目標とした人口2万人を達成できるのではないかと考えております。

続きまして、8ページ以降、各プロジェクトの細かい変更点等説明させていただきます。

まず、11ページ目でございます。従来の総合戦略ですと、26ページのところになります。こちらの変更点としましては、池田山プロジェクトの現在取り組んでいる内容を、さらに一歩進んで来年以降も継続していくために、そういった内容を反映しています。詳細については、議題3で説明いたします。

続きまして、12ページをご覧ください。こちらは、移住定住チームから出てきたプロジェクトでございます。従来は、今年度中に具体的にどんなことをやるかを検討してKPIを決めますとされていた部分でございます。まず、移住促進に向けた戦略を企画するために、町内で移住定住についてのニーズ調査をするところから始めたいと思っております。また、移住を検討している方、あるいは移住直後の方と地域をつなぐために、細やかなサポートをする移住コンシェルジュという人材を配置したいと思っております。さらに、そのコンシェルジュの活動に必要な情報、例えば空き家台帳や、池田町の子育ての情報、教育の情報、あるいはゴミや水道などの生活情報をまとめた移住PRパンフレットを整備したいと思っております。目標としては、来年度、移住コンシェルジュの方が支援した移住件数が3件、将来的には年5件まで目指したいと思っております。コンシェルジュの詳細については、議題3でまた詳しく説明させていただきます。

続きまして、16ページをご覧ください。こちらは、子育てに悩んでいるお母さんが相談できる場所が少ないので、そういう相談できる場所があるといいねという池女会の意見の中から、「ママカフェ」という事業が生まれました。今年、予算はついていないプロジェクトなのですが、池女会に参加した町内の4人のお母さん方が中心になってグループを立ち上げ、自分達でママカフェを運営し、既に2回開催しております。最初はママカフェを常設し、常に人が来たら良いと考えていましたが、仕事や家庭を持ちながら、いきなりそこまではできないという現状から、常設は厳しいと判断しました。そこで最初は月に1回、あるいは2回開催したいということから、毎月あたりの利用者数を従来は200人としていたところを、20人とさせていただきます。現在の参加者数は、先月開催したときは10名、今月は15名という状況でございます。

続きまして、17ページをご覧ください。こちらはキャリア教育の推進の内容でございます。こちらは、現在、キャリア教育コーディネーターの育成を行っています。キャリア教育コーディネーターは、実際どういふことをするかといいますと、学校と地域と企業の間をつなぐ、それが主な役目でございます。池田中学校では全生徒が企業に訪問する職業体験がありますが、今の企業訪問では、どの子どもがどこに行くという調整で先生方としては精一杯だという問題があります。そうしますと、企業としては、子ども達が来たけれどもどういった所を見せたらいいのか、何を伝えたらいいかがよく分からずお客様対応になってしまい帰ってしまう。ですので、子ども達にとっては企業へ行く前はワクワクしていたけれども、帰って来てみるとちょっとがっかりしたということになってしまいます。そういった課題を解決するために学校と企業の間に入り、学校側に対してはそれぞれの子どもがどんなことが好き興味を持っているのかを事前に調査し、企業側には今度子ども達

が来るからこんなことを伝えて欲しいという内容を伝える、つまり、学校と企業をつなぐコーディネーターを配置していきたいと思っております。そういう中で協力をしてくださる企業を今年度の3月までに50社見つけようと考えていましたが、現在コーディネーターさんのスケジュールとして毎週のように名古屋での研修や教育現場と調整が入っているというところがありまして、なかなか企業訪問という段階まで至っていないということが現状にあります。今年の11月には、また、企業訪問の時期がやってまいりますので、コーディネーターさんには4月以降に学校現場に飛び込み、企業を訪ねるということをやりたいと思います。そういった意味で期限を11月に延ばしました。

続きまして18ページ目をご覧ください。「子どもの居場所づくり事業」でして、不登校で悩む親子が相談できる場所をつくりたいというものであります。こちらはまだ詳細が決まっていない状態ではありますが、まずやっていくこととしては、不登校の悩みを相談できる、居場所となる場所の設定を来年中に行っていきたいと思っております。そういう場所の認知度を高め、使っていただける方が多ければ良いという問題ではありませんが、使っている方の満足度が高まるようにしたいと思っております。

続きまして、20ページをご覧ください。こちらも今年度中に詳細を検討します。「町を明るくするプロジェクト」でありまして、このプロジェクトの発端は、夜に商店街や通学路が暗くて安全ではない、怖いという意見から生まれてきたプロジェクトです。ただ単に、夜を照らすということではなく、それをイベントとして、町おこしとして行えないかということを考えています。現在は商工会の青年部の方とも話をしつつ、どこでどういった場所で開催するかということ相談している段階です。町を明るくするというイベントを来年中に一度行って、手作りの行灯を商店街や町並みに飾りたいと思っております。行灯づくりには、小さい子どもから、竹づくりが得意なおじいちゃん、おばあちゃんに参加していただいて、ワークショップ的な形で作って飾るというものを行いたいと思っております。

続きまして、23ページをご覧ください。こちらは、揖斐川町と池田町とで連携して、養老鉄道サイクルトレイン日本一への挑戦プロジェクトということで考えているものでございます。こちらは議題3で詳細に説明させていただきます。

続きまして、24ページにつきましては、17、18、19と3つの事業がございますが、これは、西美濃地域3市9町で連携して取り組もうということで、現在大垣市主導で進めているものでして、その方針に合わせて池田町も取り組むものでございます。

最後に、25ページになります。こちら基本目標6として新しく取り組もうとしております。町民と役場が協力しながらまちづくりに取り組む、町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクトです。これについても詳細については、議題3の方で説明させていただきます。説明としては以上でございます。

(岩谷座長)

ありがとうございました。それでは、御質問や御意見がありましたらお伺いします。

(女性セミナー 勝野)

16ページのママカフェについて、子育て支援ということで、子育て支援センターへいつもお子様連れで来る方が多くみえます。生後6ヶ月ぐらいのお子さんを連れのお母さんも、子育てについての相談を受けに、子育て支援センターへ結構来ています。そういう方達へのPRはなされているのでしょうか。

(早田理事)

子育て支援センターへのPRというところまで、まだ至っておりません。今回の10名から15名の参加者は、4人のリーダー達のお知り合いのお母さんです。まず身近なところから声をかけていこうということで、始まっています。今後子育て支援センター等へのPRも考えていこうと思っています。

(岐阜新聞 馬田)

移住コンシェルジュの登用とありましたが、イメージとして池田町職員の方なのか、外部から人材を雇用するののかということをお尋ねしたいです。

(小川企画課長)

後ほど、議題3の加速化交付金の中でご説明させていただきますが、12ページの方につきましては、池田町の方で独自に人材の募集をかけまして、行っていくものでございます。

(岐阜新聞 馬田)

外部から登用するという事によろしいでしょうか。

(小川企画課長)

そうですね。募集の呼びかけはこれからになると思います。

(工場会 松本)

その呼びかけはどうするのかというのはまだ決まっていないのですか？

(小川企画課長)

何の媒体で募集をするかということでしょうか。町のHPであったり、広報であったりを広く活用したいと思っております。

(工場会 松本)

この地方創生の会議に入っている中で、せめて自分の息子は池田町に住ませないといけ

ないと思っけていまして、3人息子がいる中で2人は町内在住で、1人は町外ですが、今度池田町に住むことになりました。移住定住については、最低限度、町の人間は絶対やらなくてははいけないぞと働きかける必要があると思う。それと、移住した場合のメリットは何があるのかということをおPRしないと、ただ単に募集をしたところで、移住につながらないのではないかと思う。揖斐川町では、土地を無償で与えると新聞に出ており、それが良いか悪いか分からないですけれども、それを根尾でもやっけていまして、今そこには誰も住んでいない。無償で土地を提供する場所に、何故、今人がいないのかという勉強もしていただくと非常にいいと思っけています。そして自分の子ども達から、最低限度努力して欲しいと思っけています。

(岐阜大学 富樫)

ワークショップの時も、移住コンシェルジュのチームの中に僕もいたのですが、これからというところもあるし、この前岐阜新聞で郡上を取り上げた移住定住のシリーズが組まれたので、見られた方もいるかと思うのですけれども、去年郡上で、和良とか八幡に来た人の調査を学生と行ってきました。例えば和良ならば、定職前後で田舎暮らし、農業したいという人も入ってくるし、八幡だとUターンやIターンなど若い人達が戻っけてきていて、そういった移住してきた方同士に横のつながりができていて、さらにその間に地元出身のUターン組も入っけてきていて、町内の人達ともつながって、空き家の活用とか、自分たちでどうまちおこしをしていくのかというところをつないでいくということですね。

この前、四国の徳島の神山町の方が池田町に講演で来てくっけて、神山町は東京からIT協同組合の会社の人が入っけてくるという話をしておりましたが、似たような話が揖斐川町の春日でもあると聞いています。そうやっけてうまくチャンスを作っけて、つながりを作っけていくと、若者がこちらに戻っけてきて、新しい仕事とか暮らしの仕方を見つるという時代の流れがあるので、是非そういうのに活かしていただければなと思っけています。

あともう1つ、岐阜大学の宣伝になりますか、池田温泉のトンネルを向けて垂井町側に出て行くと、岐阜大学の旧早野邸のセミナーハウスがあります。昔、学長だった方のご実家ですが、今はもう手放されてそこを使わないからということで大学側が寄付を受けました。赤坂、垂井に学生と実習を行った際に、そのセミナーハウスを活用したこともあります。理事にはお話をしたのですが、今年は、うちの学生達を池田町に連れてこようと思っけています。先ほどのレンタサイクルも聞かっけていただいて、何か我々もできることがあればと思っけていますので、今そういう企画も考っけています。

(工場会 松本)

3,995万の補助金について、総合戦略で補助金を使われるということですが、これの内訳が総合戦略内にどこにも載っけていない。例えばこの事業でいくら使う等、どう内訳がされているのかを教っけて下さい。

そして、地方創生というテーマで、人口が話題となっていますが、人口ということは、第1回目の会議の冒頭でも申し上げた通り、子どもを産んで下さる女性に、もっと手厚い支援をしていかないといけないのではないかと思います。出産や子育てに必要なお金が足りず困っている方もいる。従って、そういった方々への金銭的な支援が、本当は良いのではないかと思います。石破大臣が「やればいくらでもお金を出す」とそういう言い方をされましたように、また2回目、3回目と補助金がある場合には、池田町としてもそういうところにお金を使っていたらいいと思っております。

(岩谷座長)

ありがとうございました。それではお諮りをいたします。ただいまから14時50分まで休憩といたしたいと思っておりますが、よろしいですか。では休憩といたします。

#### 【休憩】

(小川企画課長)

先ほど松岡委員の方からお話がありました件、補助金の内訳について、まずこの事業一度に補助金がつき、すぐに全部15項目の事業をできればいいと思う一方、やはり人材やお金の面で難しいというのがありますのと、事業をつくって交付するには色々な条件があります。まず、事業内容について審査があります。審査の中で、例えば先ほどお話しされました子どもがたくさん産むことができるように補助金を出すというものは、何人産まれたら補助金がいくら等と直接お金を出すようなものは認められていなくて、事業計画を作成し、そこでその計画内容がいいものに補助金をつけるということになっております。金額のお話を申しますと、当然今回については10分の10の割合で補助金がつくものでありますので、町としてもそこを狙っていったという経緯があります。そこで、先ほど私3,995万円と申し上げまして、この資料の方、右の方に「平成27年度予算」という風にあるかと思います。その合計が4,070万となっておりますが、私が言いましたのは国の方の補助金額ということで、まず2番目にあります、「池田山を活用した体験交流ツアー」こちらが補助金額1,700万円です。それでこちらに10万円は町費を入れているものでございます。もうひとつ下から2番目の「職業体験・キャリア教育を通じて」というところで、こちらが1,295万円、残りのところにつきましては、今回「総合戦略を作成したら、1,000万円、配分は町村に任せます。」ということで、残りのところを1000万、補助金額としましては併せて3,995万円でございます。それと、この後理事の方より説明いたしますが、加速化交付金という、こちらも10分の10の割合で補助金がつく補助金ということで、申請していこうというのが、今の予算の内容でございます。



(岩谷座長)

ありがとうございました。それでは休憩を閉じて、休憩前に引き続き会議をいたします。またご意見・ご質問等ございましたらお願いいたします。よろしいですか。無ければ議題の2番目の岐阜県池田町版地方創生総合戦略の改訂案については、これを最終案とすることとしてよろしいでしょうか。この件につきましては、報告を了といたします。

それでは、本日の議題の3つ目である「加速化交付金に係る実施計画について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

(早田理事)

それでは議題3「加速化交付金に係る実施計画について」を説明させていただきます。国において、平成28年1月に、平成27年度補正予算が成立しました。それを受けまして、国は、全国に対して、改めて地方創生のための事業の募集をかけました。そこで、池田町としても、2月中旬に申請しまして、3月の中旬から下旬、もしくは3月最終週ぐらいには、採択結果が分かると思います。今回申請している内容については、平成28年度に予算を繰り越して実施していこうというものでございます。申請額は、1市町村あたり4,000万から8,000万が目安となっています。事業数は2つまでですが、他の市町と連携してやっていく分については、3つも4つも実施してやってよいこととなっています。

そこで、池田町としましては、3事業、合計8,600万円ほど申請をしております。その3つの事業内容について、今の順に説明をさせていただきます。

まず1つ目、「町民と役場をつなぐ『まちづくり工房』プロジェクト」です。背景としては先ほど申し上げましたとおり、プロジェクトを進めていく中で民間からも、役場と町民をつなぎまちづくりをサポートする人材を確保し、育成したいというものでございます。この事業を通じて、トータルコーディネーター、地方創生人材を確保するとともに、池田町の中心地にあり、現在は使用されていない池野駅の駅舎を改修し、人が集まる拠点にしたいと考えています。その拠点では、どんなことを行うかと言いますと、まず移住者向けの事業です。池野駅は、外から池田町に来た方にとっては「池田町の顔」としての場になります。そこで移住者向けの情報発信を行い、また先ほど申し上げた移住コンシェルジュは池野駅に常駐するというイメージでございます。つまりこの拠点にいる方はまちづくりにも関わりつつ、移住の方のサポートも行っていくという2つの役割を考えています。

2つ目の役割として「ママカフェなどまちづくり活動団体の支援」とありますが、駅舎を改修した際にトータルコーディネーターの事務局だけではなく、人が集まれる会議室、コミュニティスペースを作りたいと考えています。そこに赤ちゃんが来ても対応できるようなトイレを整備し、給湯室もつけて、子育て中のお母さんにとっても集まりやすいところにしたいと思います。コミュニティスペースを活用しながら、ママカフェなどのまちづくり団体をサポートしていきたいと考えています。

3つ目の役割として、先程説明した「まちを明るくするプロジェクト」あるいは、萩原

の方でやろうとされている「田んぼアート」など自分たちの地区で「あれやりたい、これやりたい」という声が出てきた時に、「それだったら、こことこういう風にやったらどう？」とか活動のお手伝い、支援をするということも考えています。

これらの事業費としては、約3,200万円。その内訳として、トータルコーディネーターの活動費として500万円。池野駅舎の改修費用として1,650万円。空き家台帳の整備、もしくはHPの作成として750万円。また移住定住についてのニーズ調査・研究、移住PRパンフレット等の作成や移住プロモーション活動等として268万6千円であります。

続きまして、プロジェクト2つめでございます。「池田まるっと体験交流ツアー創出プロジェクト」でございます。これは、「池田山を活用した体験交流ツアーの実施」の発展版でございます。このプロジェクトの発端は、桜の季節以外の休日観光客数が落ち込んでいることから、観光資源を掘り起こして、年間を通じてお客様に来ていただけるようにしていきたい。目標としては、体験交流ツアーをつくり、池田町に3,200人訪れて、一人あたり使って下さる金額を現状の約2,300円から、岐阜県平均並の3,700円まで上げていきたいと考えています。今の状況ですが、池田町の観光資源として何があるかということアンケート調査しまして、これが観光資源になりそうだという候補が、いくつか見つかってまいりました。また、観光スポットをガイドする人材育成をやっております。また候補となったところを実際レンタサイクルで廻っていただくというモニターツアーを実施しました。

今後取り組むこととしてあげられるのは、3,500円から4,000円、5,000円という参加費を払っていただける、具体的な体験交流プログラムづくりであります。例えば自転車を借りて、観光スポットを巡ってもらって、お昼も食べることができて、最後は温泉に入って、お土産も買えて、全部で5,000円のツアーというものです。これを作っていくのが、平成28年度の大きな目標となります。また、体験交流のための拠点整備を行う必要もあります。拠点候補として、霞間ヶ溪の登山の入り口のところに桜会館という社会教育施設を考えています。こちら時々研修や、桜の季節であれば町の方に使っていただいているものでございますが、なかなか使われない時期が多いという課題があります。社会教育だけではなくて、観光としても使っていきたい。前任のJTB長野委員が町内を巡ってくださった時に、桜会館を見まして、「これは素晴らしい。このままにしておくのはもったいない。」とお言葉をいただきました。長野委員自身、異動されてしまったんですが、3月の25～26日に桜会館の部屋を予約されておまして、「まず自分が泊まってみたい」と、「一番いい時期に、一番景観のいい部屋で桜会館を楽しみたい」とまで言っていただきました。ただ耐震性の問題であったり、トイレが大分汚かったり、男女共用になっていたり、そのような課題がありますので、若い方に来ていただいても喜んでいただけるような最低限の補修・改修はやっていきたいと考えています。そこをガイドの担い手さんとなる方達の拠点として、もしくはお茶の入れ方、お茶の飲み方を体験できるような場所として

も使っていきたいと考えています。その他に観光消費額を高める工夫のひとつとして、デザインの部分にも力をいれたいと考えております。池田町にはお茶屋さんがたくさんありまして、1軒1軒お茶の味が違うと聞いております。その違いを飲み比べて味わいつつ、これは全部池田町のお茶だということが分かるような、統一したパッケージデザインを作っていきたいと思っています。

現在、池田温泉にレンタサイクルを置いてありますが、あれはモニターツアーの実施のためということでリースしたものであります。4月以降は、購入という形で整備して、活用していきたいと思っております。これら全体で事業費として3,250万円の申請をしております。具体的な内容と金額と内訳に関しては、資料に書いてある通りでございます。本取組を通じて、西濃地域の日帰り客1人あたりの観光消費額3,700円を目指していきたいと思っております。

最後に3つ目。「日本一のサイクルトレイン養老鉄道を目指した広域観光推進プロジェクト」について説明させていただきます。本プロジェクトには2つの背景、課題があります。1つめは養老鉄道を日常的に使っていただける利用客の増加を目指したいということ、2つめは池田町に来た後に自由に町内を回れるような交通手段が無いということでございます。確かにコミュニティバスがありますが、平日のみの運行であったり、時間とルートが決まっていて自由に行きたいところに行けなかったりという状況ですこれでは、都市部の車を持っていない方にとっては、なかなか訪れづらい場所であり、これを解決するためにレンタサイクルを2次交通手段として整備していきたいと考えております。本事業は当初、養老鉄道の沿線市町3市4町、北は揖斐川町から、南は三重県の桑名市まで全部の市町で整備することを目指しました。沿線市町と様々な調整をしていく中で、それぞれの市町の事情もありまして、結果的には残ったのは揖斐川町と池田町ということになりましたが、是非今回成功させて、収益が成り立つという実績をつくり、他の市町にも波及させていきたいと思っています。今回のモニターツアーには、笠松町や垂井町といった他の市町の自治体職員が興味を持って参加して下さいました。やり方と結果次第によっては、どんどん波及していく可能性があると考えています。具体的な実施内容として、まずは、揖斐川町と池田町にそれぞれ10台ずつ、自転車を整備します。この自転車は機能が優れていて、ひとつは電動アシスト付きということであります。電動アシスト付きなので50代の男性が池田山の頂上まで登ったという実績もあります。もうひとつはGPSと言いまして、今どこにいるか位置が分かるという機能がついております。位置機能がついていることで、乗った方がどういったところを巡っているかがリアルタイムで分かります。こういうところが観光資源になりうる、みんなこういう風にまわっているということが分かりますので、町の観光施策にも活かせるというメリットがあります。、その他に、無人で貸し借りが可能になるという機能もあります。スマートフォンあるいは携帯電話と、クレジットカードがあれば誰でも事前に予約ができ、予約をした後にケータイを鍵のところにかざしますと、鍵が開き、自転車が使えるという仕組みになっています。また、ただ自転車を整備するの

みでは利用客が増えないことが考えられます。他の市町で既に整備されている例があるのですけれども、利用率がだいたい15%前後とかなり低い実情があります。これは自転車をおいているのみでPRに力を入れていないからであると考えられます。そういったところを補うために、PRイベントを行うこと、車のカーナビのような地図を提供することが必要であります。今回モニターツアーをやったところ、参加者から、「地図がなくてとても分かりづらかった。」「自分の携帯画面で地図を見ながら、町内を回った」「地図アプリを作っ  
て欲しい」という回答が結構ありました。このため、観光スポットの情報が入っていて、「ここに行きたい」と選択したら、青い線がルートとして引かれて、音声で案内してもらえるナビアプリを作っていきたいと思っております。これら全体で事業費として、約3,000万円の申請をしているところであります。目標としては平成28年下半期の利用者数1,260人を目指していきたいと思っております。この目標値は、平日の利用率が2~3割、休日の利用率が5~6割を想定しています。これは、GPS利用による通信費や、自転車の再配置のための人件費などのランニングコストを確保するために必要な利用人数です。更に、西濃地域他市町への波及台数を目標値として設定させていただきました。これについては、金融機関、マスコミ、旅行業社、養老鉄道、大学生の方々に様々な形で、PRの面で力を貸していただけると非常にありがたいと思っております。以上でございます。

(岩谷座長)

説明が終わりました。それでは、御質問や御意見のある方がいらっしゃいましたら伺いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(サンビレッジ 小林)

観光資源がいろいろあるのですが、これは主に若者向きであります。これから高齢者が増えてくるので、高齢者や障がいを持った方でも安全に温泉等にいける形であればいいなと思えます。人間は、障がいを持ってからの方が、人生が長い場合もあるので、そういう人を取り込めば、目玉になる可能性があると思えます。それに関するノウハウが介護施設やライフサポーター、町民の中に蓄えられていて、実際そういうこともやっているのです。そのような取組があると時代に合ったものになるのかなと思えます。

(農業代表 遠藤)

この有識者会議に、青年部の若い声をいれたらどうかと思えます。

(大垣共立銀行 石田)

レンタサイクルのモニター募集の中で、町内の方よりも、いわゆる町外の方、県外の方がこんなに応募されたということを知って、実は驚きました。町外・県外の方で、SNSを利用して応募される方が、私が思っていた以上に多いのかなと思えました。これは偏見

なのかもしれませんが、SNSを利用して応募される方は、比較的、若い方が多いのではないかなと思います。当然SNSを自由に使われるご高齢の方もいらっしゃると思うのですが、もう少しアナログな方法で、うまくPRができるといいのかなと思います。この3つのプロジェクトについては、まだ3月の中旬から下旬の最終結果次第でしょうけれども、大きな補助金をいただく中で実行するプロジェクトであり、当然国のお金を使うわけですから、絶対成功させなくてはいけないプロジェクトであると考えますと、いわゆる町民の方がこういうことをやっているよということを知る機会を幅広く与えるということと、町外の方や県外の方にPRするまさに絶好の機会だと思いますので、その辺りをきちんと工夫しながらこのプロジェクトを進められると成功するのではないかなと思います。

それと、私どもの大垣共立銀行池田支店には全員で20人の職員がいるのですが、実は町内在住の職員は2人しかいません。18人が町外もしくは県外から来ています。池田町の地方創生は非常に沢山のプロジェクトがあることが特徴だと思っています。最近、こういうプロジェクトを新聞紙面で見ることが増えましたが、その記事を町外の職員に興味深く見ていただくために、コピーをして、池田町ではこういうイベントを数多くやっていることをPRしています。そうすることによって、18人は非常に少ないかもしれませんが、そういう方が例えば家に帰って話をするなどの効果もあると思っております。私は町外の人間ですが、新聞に池田町の名前が多く載ることで、プロジェクトの動きを非常に興味深くみておりますので、そういう目線で皆様に見ただけだと、この大きなプロジェクトが成功されるのではないかなと思います。

(区長会会長 高崎)

地方創生総合戦略ということで、池田町の課題を網羅したものですので、私は、この期間中になんとか目鼻をつけていただきたいと思っております。私どもも協力させていただきますので、よろしくお願いします。

(民生委員 竹中)

池田山の山麓には様々な老人施設、福祉施設があります。こういうのがあると、福祉のまち池田町をPRになるようなものを、メニューのひとつに入れていただきたいと思っています。私の妻の姉になるのですが、ずっと足が痛いと言っていて、片山の池田温泉から上八幡の私の家まで往復しようと思うと結構な坂道で、車でないと行けないと言っていました。その義姉が、この前初めて電動アシスト付き自転車を購入しまして、足が痛いと言っていた義姉が片山から私の家まで野菜を持ってきてくれたりとか、あの坂道を平気で帰ったりします。出歩くのがそういう意味では楽しくなったと言っています。先ほど池田山まで登ったという話を聞きましたが、あの義姉の電動自転車で山頂まで登れるかどうかは知らないですけど、ちょっと乗った感じだとやたらとペダルが軽く、池田山の山麓の坂道を誰がどう見ても苦にならずに登れるものだと思います。そういう意味ではメニューの

組み方によっては、誰でも「一度乗ってみようか」と思えるようなものができあがるのではないかと思います。私も池田町に住んでいるのですけれども、池田町の歴史等はあまり知らなくて、山麓にある古墳だとか民話とか、話には聞いても細かく聞いたことはないの、そういうものがあるのなら一度行ってみようかなという気にもなります。そういったメニューを様々な形で作るどころが、腕の見せどころかと思えます。結構、面白い挑戦であると期待をしております。

(女性セミナー 勝野)

今日ずっとこの会議に出席させていただきまして、女性の活躍ということに関して、女性セミナーには80名の会員がおります。女性にはおしゃべりな方も多くですし、池田町をPRするのも、お店をPRするのも、とてもいい機会だと思いますので、是非宣伝の方に力を入れたいと思いました。ありがとうございました。

(JTB中部 小古)

初めてのこのような会議に参加させていただきまして、どのような発言をしていいのか戸惑うところもございましたけれども、少々感じたことを述べさせていただきます。今、観光は、物見遊山的なものではなくて、例えばおっしゃられた健康という目的や「地域の人達との交流が良かった」という御意見を、他の地域でも多く伺います。「ここはいいから来てね」というPRは、勿論多くやっていただきたいのですが、来ていただいた方に満足して笑顔で帰っていただくことが非常に大事だと思っております。それこそSNSで、「池田町に行ったらすごく良かったので、また行ってみたい」ということを観光客の方に言っていただくと、それがまた広がって行って、観光客が倍増していくと思えます。町民の皆様全員が「我が町池田町」というのを知っていただいて、「池田町の自慢」が外から来た人に少しでも伝わるように、住民達の方々も池田町に誇りを持って暮らしていただいて、外から来た人にも笑顔で接していただけるような活動を是非していただきたいと思えます。

(岐阜大学 富樫)

他の町もこのような会議に参加させていただいて地方創生総合戦略を作っていたのですが、やはり実態としては、会議をして計画を策定するまでが精一杯というのが現状です。池田町は、動き方の速さと言いますか、町民の参加の仕方がすごいなと感銘を受ける次第です。先ほどのまちづくり工房のようなものは、我々も岐阜の「まちづくりセンター」や、長良川の「おんぱく」の事務局と一緒にやっていますが、これまでのアイデア工房も池女会もそうだったと思いますが、みんなでサポートする、みんなで一緒になってプロジェクトを作っていくという形が、徐々に厚みを持って継続して行って、年々大きくなっていくのがいいと思います。ですから、まだスタート切った段階で猛ダッシュをかけている状態ですけれども、今後継続して行って、山を登れるぐらい力をつけて、がんばっ

ていただければと思います。我々も微力ながら少しお手伝いさせていただこうと思っています。

(岩谷座長)

ありがとうございました。皆様から様々な御意見を頂きましたので、ご意見を踏まえ加筆修正等をし、最終案は座長一任とさせていただいてよろしいでしょうか。

【異議無し】

それではそのようにさせていただきます。短い時間ではありましたが貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございました。非常に濃い議論になったと思います。委員の任期につきましては、平成28年3月31日までとなっておりますが、来年度につきましても引き続きみなさまのご協力をたまわりたいと思います。遠藤さんから若い人の意見もという話がありましたので、その点も踏まえて拡大させていただきたいと思っております。座長としましてつたない進行でしたが皆様方のご協力によりまして議事がスムーズに進みましたこと、お礼申し上げます。全4回にわたり、熱心なご協議どうもありがとうございました。本日は、皆さま、お忙しい中、有識者会議にご出席いただき、誠にありがとうございました。それでは、これにて池田町地域創生有識者会議を終了いたします。ありがとうございました。

(了)